



上尾市議会議員 民主党

32歳

市議会レポート
2011-④

まちだ 皇介

発行:まちだ皇介後援会
所在地:〒362-0015 上尾市緑丘3-6-32
☎/FAX:048-793-4811
E-メール:k.machida@ba.wakwak.com

平成23年9月議会 まちだ皇介 14回目の一般質問 [抜粋] PART2

上尾市を「全国に発信できる魅力あるまち」へ!!!

スポーツ宣言都市にふさわしいスポーツ環境の整備について

質問(まちだ)

市民体育館については、3月11日の震災によってメインアリーナの天井の一部が落下するなどの被害を受けましたので、6月議会において、耐震診断の予算が計上されました。

その時の説明では、耐震診断を行い、その後、改修計画を策定するとのことでしたが、★現状と今後の方向性について伺います。

また震災以降、市民体育館は全面使用禁止となり、卓球場や柔・剣道場などの一部の使用は再開されていますが、市民体育館が使用できなくなったら、利用する方々から「いつから使用できるようになるのか。代替りの施設の予約が取れない。場所が確保できないので団体活動が休止してしまう。」といったお話を伺っています。

市民体育館は、日常のスポーツや大会など、様々な方々に利用され、耐震化するにしてもある程度の期間は使用できないことが想定されますので、その対応も必要です。

★市民体育館を利用していた方々への代替施設の提供を含めた市の対応について伺います。

答弁(担当部長)

まず、市民体育館についての現状ですが、現在、市民体育館の耐震調査を行っており、10月末に診断の結果が出る予定です。その診断結果により、耐震補強なのか、建て替えなのか、いずれかの判断をしたいと考えています。

工事期間については、耐震補強工事の場合、平成24年度末を予定していますが、建て替えとなりますと、平成25年度末までかかる可能性もあります。

続いて、アリーナが利用できない期間の代替施設の提供についてですが、市内には、上尾運動公園体育館、スポーツ総合センター、かしの木特別支援学校体育館

などの県立スポーツ施設や市内小・中学校の体育館などの開放施設がありますので、利用団体の方々への周知を図っているところです。

今後は、市内県立体育館の市民利用の拡充について県と協議を進めていきたいと考えています。

上尾市出身の有能なスポーツ選手を輩出していくことについて

質問(まちだ) 【中学校運動部活動について】

中学校運動部活動は、単に体力や技術の向上だけでなく、学習意欲の向上や自主性・協調性・連帯感などの涵養に資するものとして、生徒の人間形成を図る上で、重要な役割を果たしています。

しかしながら、近年、全国的な傾向ですが、少子高齢化の影響で、生徒や教員数の減少、あるいは、顧問となる教員の多忙化・高齢化による指導者不足の問題など、部活動数は減少の一途をたどっています。

生徒にとっては、行く学校によっては希望する部活動がない場合もありますので、部活動の選択の制約を受け、活動意欲の低下を招くなど、生徒のニーズに答えられないような状況も出てきています。

★そのような状況を改善するため、上尾市では、部活動指導員配置事業や合同部活動事業を行っているわけですが、その課題について。また、中学校部活動の目的・効果の面から改善すべき点について伺います。

答弁(担当部長)

上尾市では、部活動指導員配置事業を平成10年度より部活動の充実及び活性化を図るために実施しています。具体的には、上尾市立中学校部活動指導員設置要綱に基づき、最大45名の外部指導者を学校長からの申請を受け、配置しています。学校や生徒にとって、技能の向上を図る上で効果的な事業となっています。さらに、多くの外部指導者は市内在住であり、地

域の教育力を活用した事業ともなっています。外部指導者には、休日や仕事の合間をぬってご協力いただいている場合も多く、人材の発掘、確保といったことが課題となっています。

また、合同部活動事業に関しては、平成14年度より、実施要綱に基づいて実施しています。具体的には、部員数の少ない学校同士が合同チームで大会に参加することや自分の学校に設置されていない部活動を希望する生徒が他校の部活動に参加できるようにするための事業です。現在は要望がなく、実施していません。

教育委員会としましては、部活動の意義と各学校の状況を踏まえ、部活動指導員の専門知識や技能、能力を十分発揮できるように支援していきます。

また、合同部活動の円滑な実施を図るため、各学校の連携を深めるとともに、合同部活動への学校長からの要望があった際には、全市的な視野に立って実施していきたいと考えています。

質問(まちだ)

先月(8月)、滋賀県で開催された全国中学校バスケットボール大会におきまして、大石中学校が全国制覇を果たしました。また今年は、水泳(100m平泳ぎ)でも上尾中学校の女子生徒が全国制覇を果たしたということで、上尾市民として、大変誇らしく、喜ばしく思っているところであります。

上尾市では、中学校全国・関東大会選手派遣費補助金というものがあり、大会参加費、交通費60%、宿泊・1日あたり上限1万円が登録選手に補助されることとなっていますが、それでも応援に行く部員や家族のことも考慮しますと、各家庭での負担が大きいとお話を伺っています。

全国や関東大会に出場することだけでも立派なことですが、そこで活躍した生徒たちは、将来、実業団やプロの選手、あるいはオリンピック選手になる可能性も十分秘めています。

★スポーツ宣言都市として、そのような若き才能を育てる環境を整備していくという点において、例えば、全国大会で優勝した場合は、それだけ滞在費もかさむわけですので、新たに特別報奨金などを考慮できないものか、お伺いします。

答弁(担当部長)

今年度、全国大会に35名、関東大会に39名の生徒が出場することができました。

全国大会及び関東大会には、埼玉県代表として出場

しますので、埼玉県中学校体育連盟から補助金が交付されていますが、全額補助にはなっていません。

上尾市におきましては、昭和54年度から上尾市立中学校全国・関東大会派遣費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付しています。全国・関東大会に出場した全ての学校を対象に宿泊日数の上限を定めず、補助金を交付していますので、現在のところ特別報奨金は考えていません。

マスコミへの市のPR戦略について

質問(まちだ)

サイクルタウン、ご当地グルメなど、上尾市を全国に発信していくような施策を進めていくことも勿論必要ですが、それとともに、内外へのPR、言葉を言いかえれば、営業活動もあわせて重要であると考えます。

私も以前、情報番組の制作で企画・特集班の仕事をしていましたので、メディアの影響力というのは本当に絶大であるということを実感しています。

ただ取り上げてくれるのを待つという姿勢ではなく、時には、メディアを意識した施策を講じたり、こちらから売り込んでいくという姿勢もこれからの自治体間競争の中では必要ではないかと思っています。

★上尾市のマスコミへのPR戦略という点において市の見解をお伺いします。

答弁(担当部長)

現在、報道機関に対しては、定例市議会前に記者会見を開催し、市からの情報等を提供しています。また、「上尾市PRシート」により普段から逐次、上尾記者クラブに情報提供しています。今年度8月末までの情報提供件数は65件で、概ね2日に1件のペースで発信しています。

内容については、その年ならではの特色を前面に出してPR効果を高め、また、地域の中にも心温まる取り組みや話題、自主的な活動がたくさん見られますので、広報誌をはじめ、ホームページ、メールマガジン、ツイッターなどを効果的に利用し、内外に発信していきたいと思えます。

他方で情報提供の内容もさることながら、報道機関が興味を持ち、取材しやすいように導くことが大変重要でありますので、担当記者など報道サイドに直接アプローチするなど、コミュニケーションを積極的に取っていききたいと考えています。